

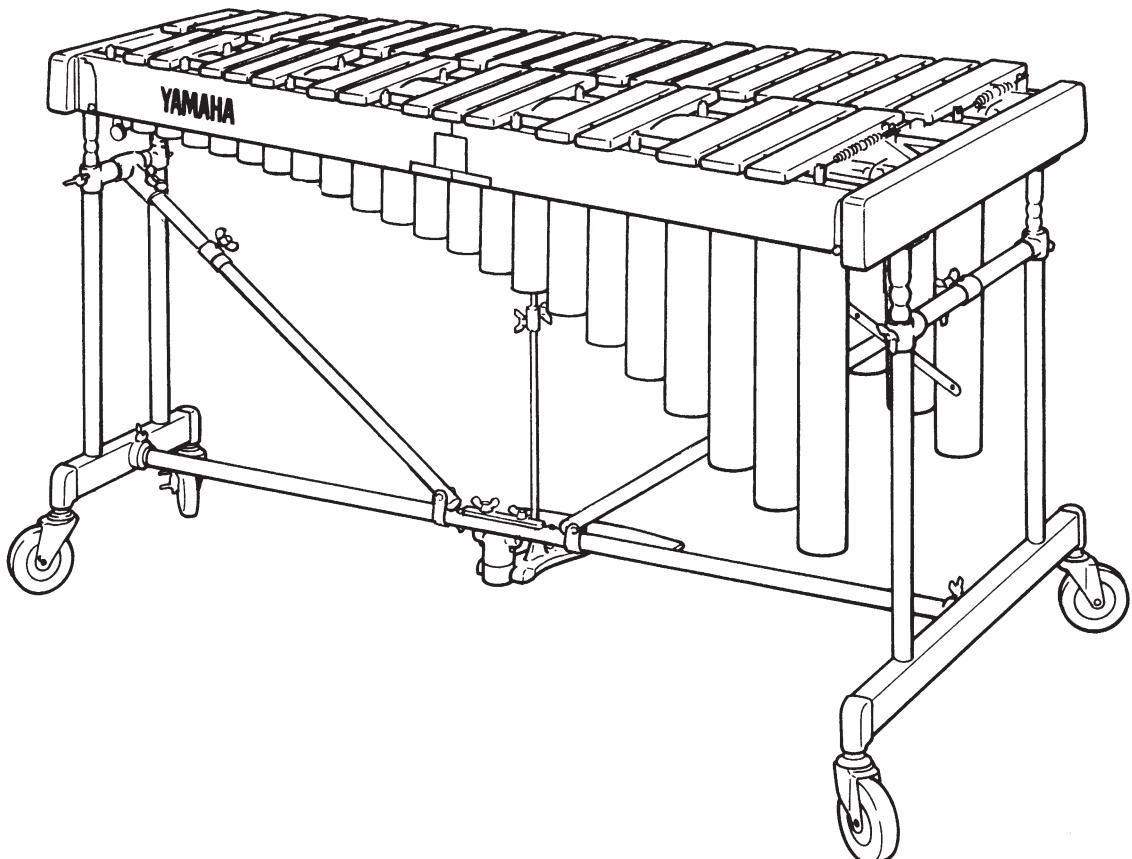


CONCERT VIBRAPHONE

YV-3910J/3710J/3000AJ

取扱説明書

『安全上のご注意』を必ずお読みください。



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、

お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、下表のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

警告

分解禁止

コントローラーやドライバーを分解したり、改造したりしないでください。
火災、感電の原因となります。

修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。
必ずお買い上げの販売店に相談してください。

取り扱い

キャスター/ペダルの下、高さ調節部のすき間などの可動部分には、絶対に手や足を入れないでください。
はさまれて大けがをするおそれがあります。

回転中のファンに触れないでください。
手をはさまれることがあります。

次のような場所での使用や保存はしないでください。
火災、感電の原因となります。

- ・温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近くなど)
- ・水気の近く(風呂場、濡れた床など)や湿度の高い場所
- ・雨水のかかる場所
- ・ホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

楽器のまわりで遊ばないでください。
身体をぶつけつけがをするおそれがあります。楽器の転倒の原因にもなります。お子様が楽器のまわりで遊ばないよう注意してください。

楽器にもたれかかったり、乗ったりしないでください。
楽器が倒れて、大けがをすることがあります。

電源 / 電源アダプター

電源アダプター使用時、電源アダプターの電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。
100V以外では火災、感電の原因となります。

電源アダプター使用時、電源アダプターの電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。
電源コードに傷がつき、火災、感電の原因となります。



ドライブユニットに、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対に入れないでください。
火災、感電の原因となります。



次のような場合は、直ちに電源を切って電源アダプターなどを取り外し、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

- ・電源アダプターの電源コードやプラグが破損したとき
- ・異物がドライブユニットの内部に入ったり、液体がこぼれたとき
- ・ドライブユニットが(雨などで)濡れたとき
- ・ドライブユニットに異常や故障が生じたとき

運搬/設置



楽器を移動するとき以外は、必ずキャスターのストッパーを左右2ヶ所ともかけてください。
楽器が移動したり倒れたりして、けがの原因となります。



楽器をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



キャスターを利用しての移動は、滑らかな平坦面でのみ行ってください。
側枠の上部をささえ、間口の方向へゆっくりと押してください。

キャスターを利用して移動する時には

1. 傾いた所や凹凸のある道、じゃり道は避けてください。
楽器が倒れたり暴走したりして危険です。
2. 走らないでください。楽器が止まらなくなって、壁にぶつかるなどして大けがをすることがあります。



持ち上げて運ぶ際は、必ず2人以上で、側枠を両手で持つて運んでください。

※ビブラフォンの質量

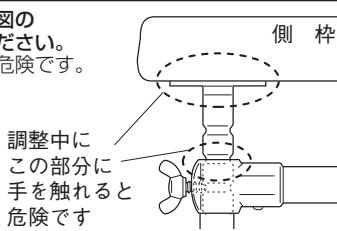
YV-3910J: 61kg

YV-3710J: 58kg

YV-3000AJ: 55kg



高さ調整の際に、下図の部分に触らないでください。
手をはさむなどして危険です。
必ず側枠を持って高さ調整してください。



調整中にこの部分に手を触ると危険です

電池



使い捨てタイプの電池は充電しないでください。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れないでください。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、専門の医師にご相談ください。

注意

組立



分解/組立の手順は、必ず本取扱説明書の「組立手順」の通りに2人以上で行なってください。
誤った手順で組み立てると、機能が十分に働かなかったり、雑音発生の原因になってしまいます。



組立後に必ずワイヤークリップの位置調整をしてください。



脚部のネジは、必ずくびれ位置で止めてください。
くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべて危険ですので、絶対におやめください。



脚部のネジは、位置が決まつたらしっかりと締め付けて固定してください。
ゆるんだ状態で使用すると演奏中に楽器がすれたり、雑音が出たり、トラブルの原因になります。またこれらのネジは時々締め直してお使いください。

取り扱い



楽器の上にものをのせないでください。
音板や枠を傷める原因となります。



正常な通気が妨げられることのない所で使用してください。



マレットは演奏目的以外には使用しないでください。
けがや事故の原因となります。お子様が人の身体をたたくなど、危険な行為をしないように注意してください。



音板をグロックン用マレットや、その他の硬いものでたたかないでください。
音板にへこみやキズができたり、音律が狂う原因ともなります。



コントローラーやドライバーは乱暴に取り扱わないでください。
内部回路などに支障をきたすことがあります。



音板のお手入れには、乾いた柔らかい布やシリコンクロスをご使用ください。汚れが取れないときは、柔らかい布にエチルアルコールを少量含ませてご使用ください。シンナーやベンジン、濡れぞうきんなどは絶対に使わないでください。
音板の表面塗装を侵すなど、楽器を傷める原因となります。



劣化した摩耗部品の交換は、お買上げ店へご相談ください。
スイッチ・ボリューム・接続端子などの部品は、使用とともに性能が劣化するため、「摩耗部品」といわれています。
劣化の進行度合は、使用環境などによっても大きく異なりますが、劣化そのものを感じることはできません。

電源 / 電源アダプター



電源アダプターの電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。



長時間使用しない場合は、電源アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず付属の電源アダプターあるいはバッテリーユニットをお使いください。
他の電源による障害は、保証期間内でも保証できない場合もございますので、十分ご注意ください。

運搬・設置



移動の際には、必ず電源コードを外してから行なってください。
コードを傷めたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。



移動の際にはキャスターのストッパーが解除されていることを確認してください。また、平らな床面以外では、少し持ち上げるようにしてください。
安定して移動することができます。



車で運ぶ場合は、すべて分解し、しっかり梱包してください。
はだかのまま移動すると、楽器が傷つく原因となります。
分解は、組立と逆の手順で行なってください。



移動の際は、衝撃を与えないように静かに運んでください。
楽器が破損する原因となります。



打面の高さ調整(YV-3910J/3710Jは19ページ、
YV-3000AJは25ページに記載)は、必ず2人以上で行なってください。
1人で行なうと楽器が倒れるなどして危険です。



脚部のネジは、位置が決まつたらしっかりと締め付けて固定してください。
ゆるんだ状態で使用すると演奏中に楽器がすれたり、雑音が出たり、トラブルの原因になります。またこれらのネジは時々締め直してお使いください。



ご使用にならないときは、必ずキャスターのストッパーをかけておいてください。

電池



指定以外の電池は使用しないでください。また、種類が異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱、分解したり、火や水の中に入れたりしないでください。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池をお子様の手が届くところに置かないでください。
誤飲など、事故のおそれがあります。



電池は極性表示(プラス+とマイナス-)に従って、正しく入れてください。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しないときは、電池ケースから取り外しておいてください。
電池が液もれするおそれがあります。



使い切った電池はすぐに電池ケースから取り外してください。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は自治体の条例または取り決めに従って廃棄してください。

ごあいさつ

このたびは、ヤマハコンサートビブラフォンをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ヤマハでは、音色の美しさと演奏のしやすさに主眼をおいて研究を重ね、厳選した最高級の素材を用いて、このビブラフォンをつくりあげました。芯のある落ち着いた響き、豊かな音量感など、きっとご満足いただけることと存じます。

本書では、ヤマハコンサートビブラフォンの正しい取り扱い方をご説明いたしておりますので、ぜひご一読のうえ、末永くご愛用くださいますよう、お願い申しあげます。

ヤマハコンサートビブラフォンの特長

1. 最高級の音板材

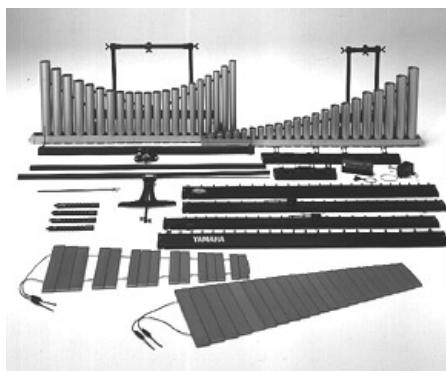
YV-3910J/3710J/3000AJの音板材には、音量感と音程感に優れた超高力アルミニウム合金24S(超ジュラルミン)を使用し、芯のある落ち着いた響きを生み出しています。

2. ダンパースプリング調整(YV-3910J/3710J)

ダンパースプリングの調整ボルトを回すことで、バネの強さを変えることが可能です。また、半ダンパー・やダンパーの常時解除もできます。

3. 脚取り外し・分解式設計

収納・運搬に便利な脚取り外し式設計です。特にYV-3910J/3710Jでは脚の分解も可能。可搬性に優れています。

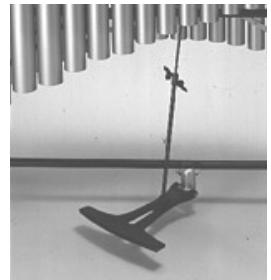


4. 高さ調整機能

5段階の高さ調整が可能です。支柱の凹にネジを差し込む方式で演奏中のガタツキやズレもありません。

5. 回転式ダンパー・ペダル(YV-3910J/3710J)

ダンパー・ペダルの向きが自由に変えられるため、ペダルを操作できる演奏位置が格段に広がりました。ペダルの回転支点部分にスプリング機構を採用し、演奏中でもペダルの向きのセッティングを脚先だけでスムーズに行なえます。耐久性も抜群です。



6. ビブラフォン・ドライブユニット

小型高性能ブラシレスモーターの採用により、ソフトでディケートなバイブレーションを伝えます。回転スピードはコントローラーのスライドボリュームによって幅広く変えられます。

7. ポーズ機能

コントローラーのSTART/STOPボタンを押すことで、演奏しながらでもクリック音をたてることなく、ファンの回転をオン/オフできます。

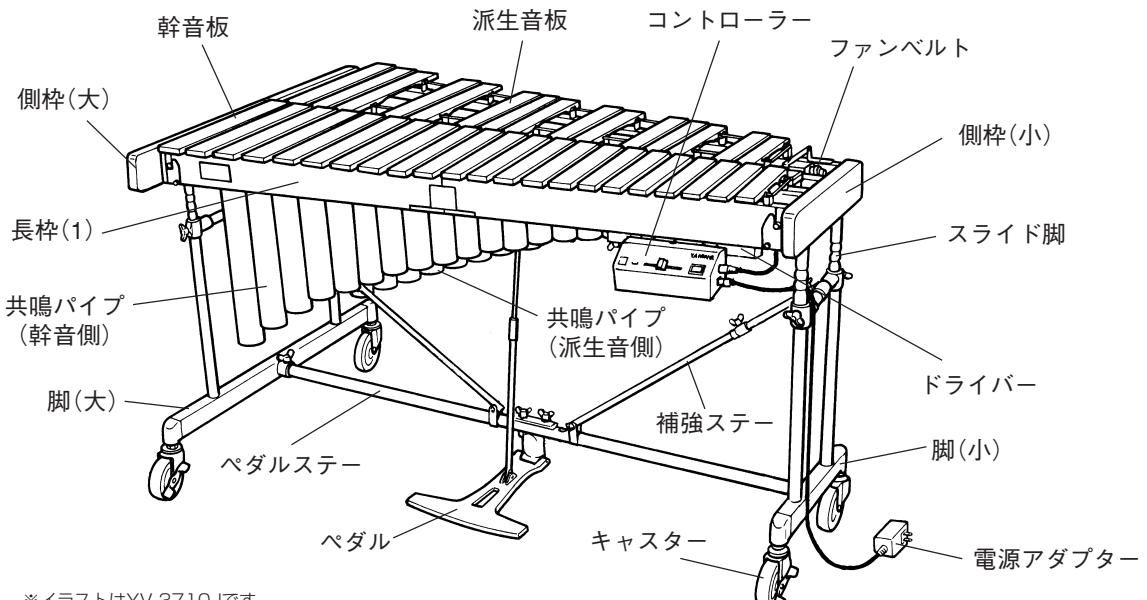
8. ポーズメモリー機能(YV-3910J/3710J)

シンクロプーリーとシンクロベルトを搭載することにより、ノンビブラートで演奏する時のファンの位置を常に同じメモリーした位置でストップさせることができます。これにより、常に安定した音量でノンビブラートの演奏ができます。

9. バッテリーユニット(電池別売)

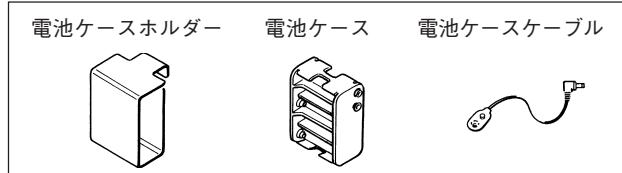
付属のバッテリーユニット(単3乾電池10本使用)により、ドライブユニットを駆動することができます。これにより、電源のない場所でもビブラートをかけて演奏することができます。

各部の名称 : YV-3910J/3710J/3000AJ



※イラストはYV-3710Jです。

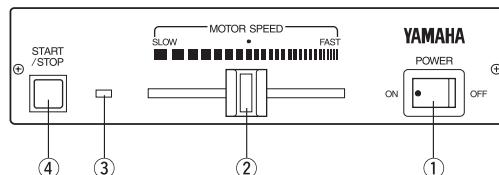
◆ バッテリーユニット



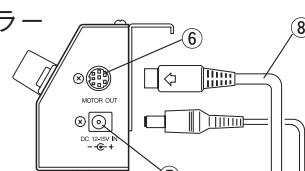
■ ビブラフォン・ドライブユニット

- ① 電源スイッチ(POWER)
電源のオン/オフを切り替えます。
- ② スライドボリューム
(MOTOR SPEED)
ファンの回転スピードを調節します。
- ③ LEDランプ
電源オンで点灯します。ファン回転中は点滅します。
- ④ スタート/ストップボタン
(START/STOP)
ファンの回転をオン/オフします。
- ⑤ 電源端子(DC 12-15V IN)
- ⑥ モーター出力端子(MOTOR OUT)
- ⑦ モーター入力端子(MOTOR IN)
- ⑧ 8p-DINケーブル
- ⑨ 電源アダプター

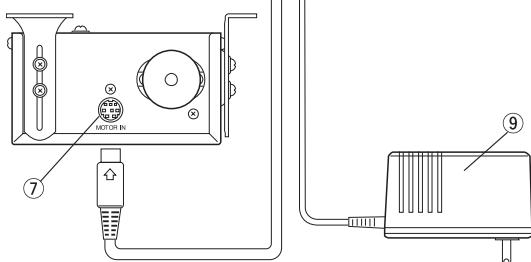
● コントローラー(奏者面)



● コントローラー (右側面)



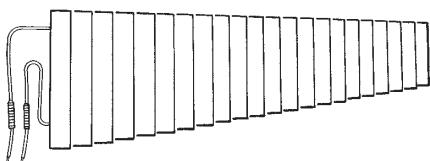
● ドライバー (奏者面)



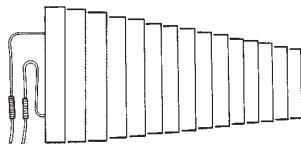
部品の確認：YV-3910J/3710J

YV-3910J/3710Jの梱包箱の中には、以下の部品が入っています。
組み立ての前に、すべての部品がそろっていることを確認してください。
※部品が不足している場合は、お買い求めになったお店へご連絡ください。

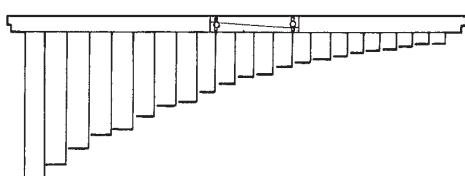
① 幹音板×1



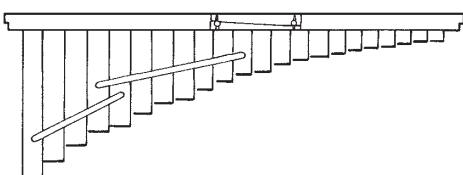
② 派生音板×1



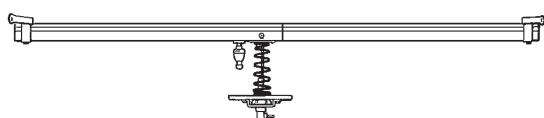
③ 共鳴パイプ(幹音側)×1



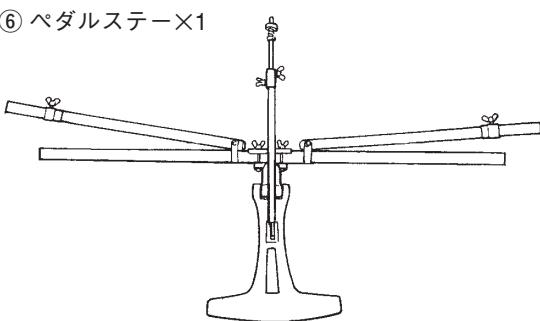
④ 共鳴パイプ(派生音側)×1



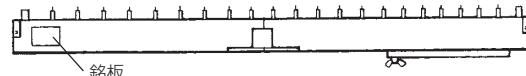
⑤ ダンパー×1



⑥ ペダルステー×1



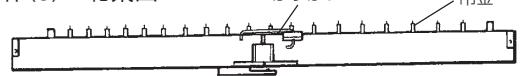
⑦ 長枠(1)：奏者面×1



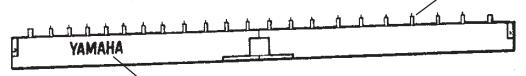
⑧ 長枠(2)：奏者面×1
かすがい 吊金(長枠(3), (4)
より数が多い)



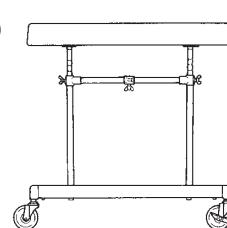
⑨ 長枠(3)：聴衆面×1



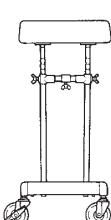
⑩ 長枠(4)：聴衆面×1



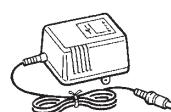
⑪ 脚(大)×1



⑫ 脚(小)×1



⑬ 電源アダプター×1

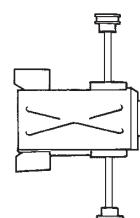


⑭ シンクロベルト
(ファンベルト)×2

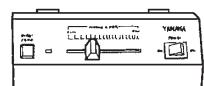


ビブラフォン・ドライブユニット：YVM-300

⑮ ドライバー×1



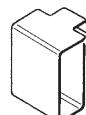
⑯ コントローラー×1



⑰ 8p-DINケーブル×1



⑱ 電池ケースホルダー×1



⑲ 電池ケース×1



⑳ 電池ケースケーブル×1



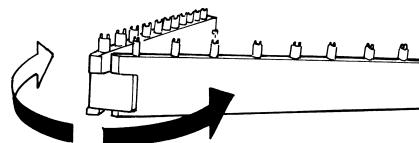
※ 電池は別売りです。

■ 分割部品/折り畳み式部品の組み立て(YV-3910J/3710J)

YV-3910JおよびYV-3710Jのいくつかの部品は、分割式または折り畳み式となっています。コンパクトなサイズになるので、運搬や保管の際に便利です。

● 長枠

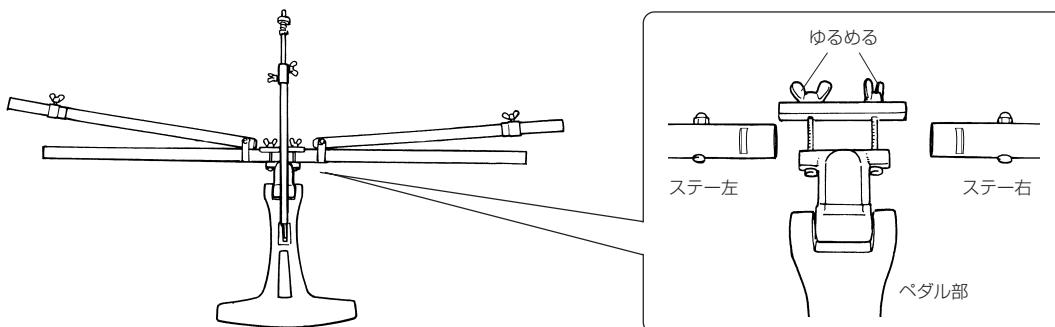
長枠は、中央部分より2つに折り畳むことができます。



● ペダルステー

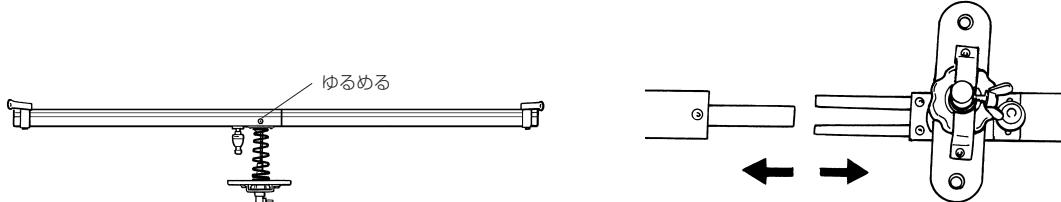
ペダルステーは、ペダル部、ステー左、ステー右の3つの部品に分割できます。

蝶ネジ2ヶ所をゆるめ、ペダル部から左右ステーを引き抜きます。



● ダンパー

ダンパーは、2つに分割できます。側面のボルトをゆるめ、左右に引きます。



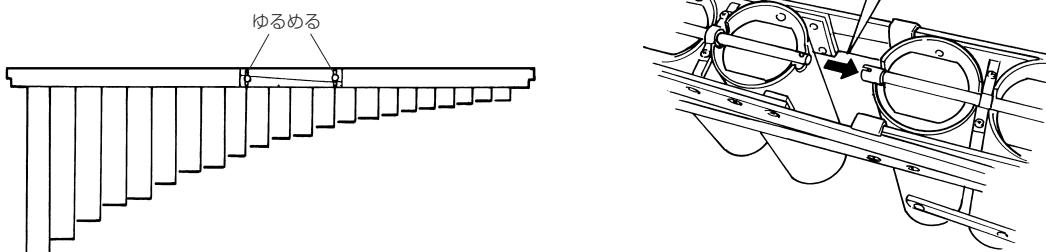
● 共鳴パイプ

共鳴パイプは幹音側、派生音側ともに、2つに分割できます。

側面の蝶ネジ2ヶ所をゆるめ、左右に引きます。

※ 共鳴パイプを組み立てる際、右図のように左右のファン回転軸の

ピンと溝を確実に接続してください。

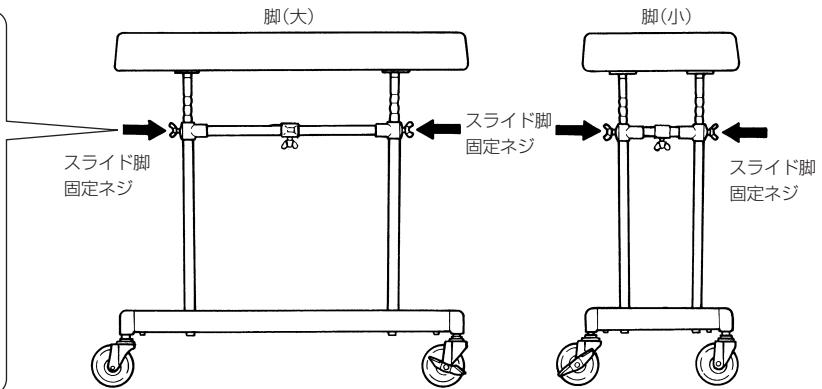
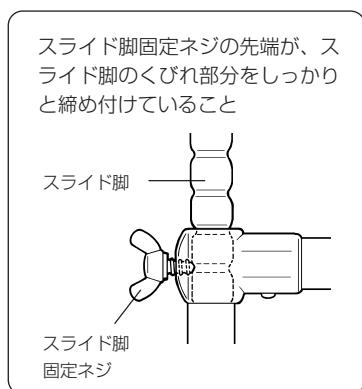


組立手順 : YV-3910J/3710J

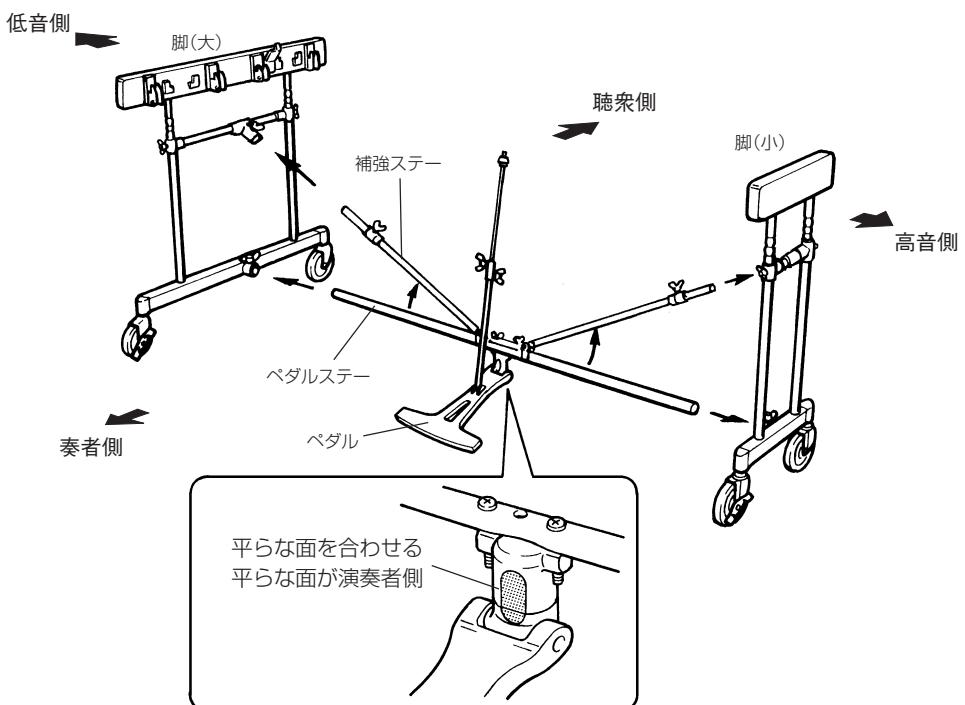
安全のために、組み立ては2人以上で、十分スペースのある場所で行なってください。
床にじゅうたんや柔らかい布などを敷いておくとよいでしょう。

1 脚(大)と脚(小)を、補強ステーとペダルステーでつなぎます。

※ 脚(大)、(小)ともに、スライド脚固定ネジがしっかりと固定されていることを確認してから以下の作業を行なってください。

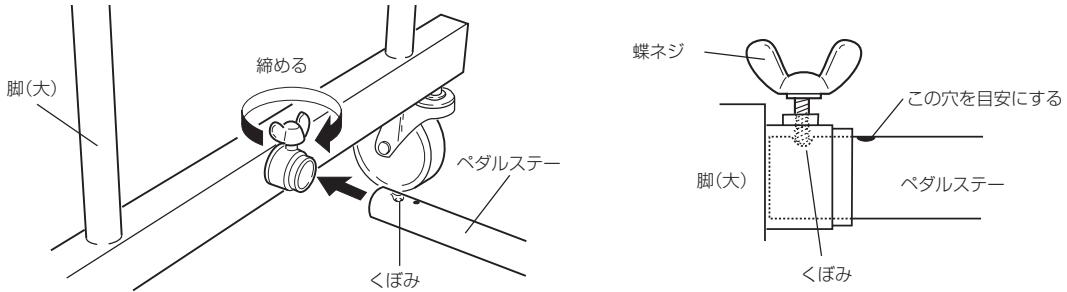


1-1 組み立てたときに下図の位置関係になるように、脚(大)、脚(小)、ペダルステーを配置します。

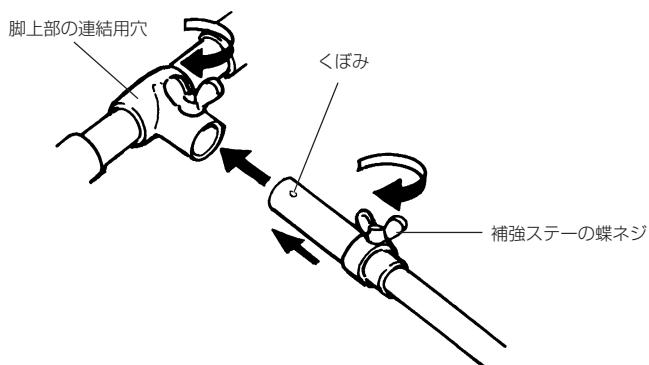


組立手順：YV-3910J/3710J

- 1-2 脚(大)の連結用穴に、くぼみを上面にして、ペダルステーを止まるまで差し込み(この位置で蝶ネジの先端がステーのくぼみ部分にきます)、蝶ネジを締め付けて固定します。
※ くぼみの近くの穴を目安にしてステーを差し込んでください。
- 1-3 同様の手順で、ペダルステーの反対側の端を脚(小)と接続します。



- 1-4 補強ステーの蝶ネジをゆるめてステーを延ばし、ステーの先を脚上部の連結用穴に差し込みます。このとき、ペダルステーのときと同様に、ステーのくぼみと連結部の蝶ネジの先端を合わせ、蝶ネジを締め付けて固定します。
- 1-5 同様の手順で、もう一方の補強ステーを脚(小)上部の連結用穴と接続します。



組立手順：YV-3910J/3710J

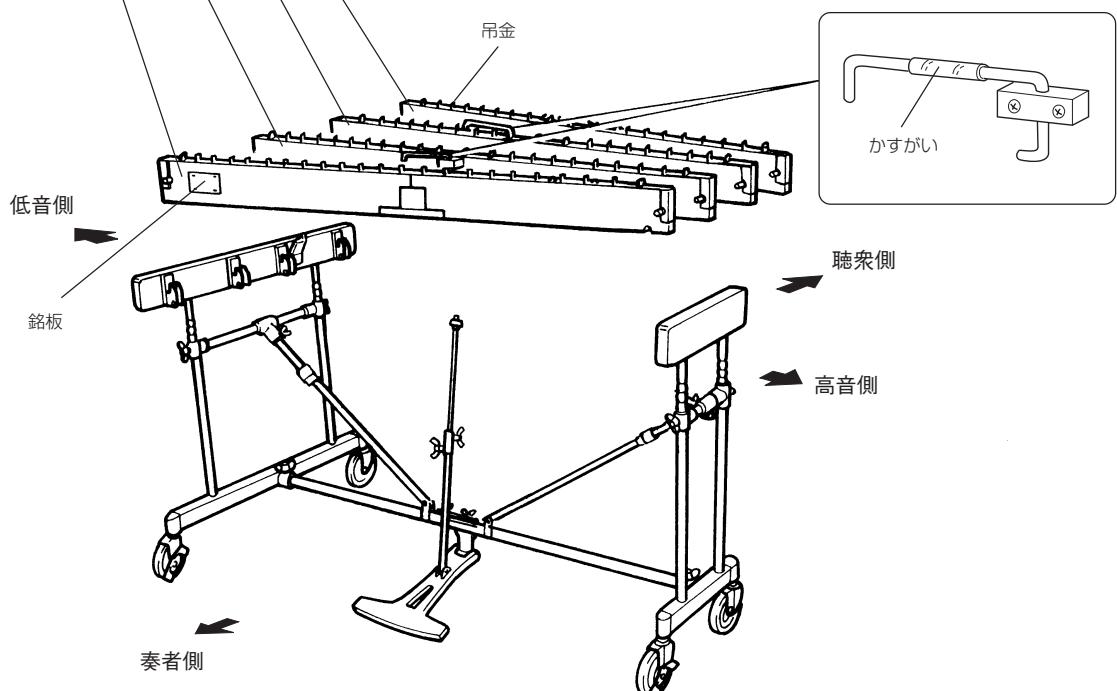
② 長枠(1)～(4)を脚にはめ込みます。

2-1 まず長枠(2)をはめ込みます。

※ 片側だけを先に入れずに、左右少しづつ入れていって、完全に下まで(止まるまで)押し込んでください。

2-2 続いて長枠(3)→(1)→(4)の順でしっかりとはめ込みます。

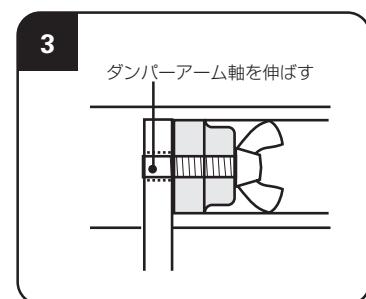
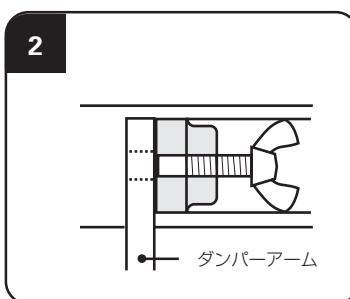
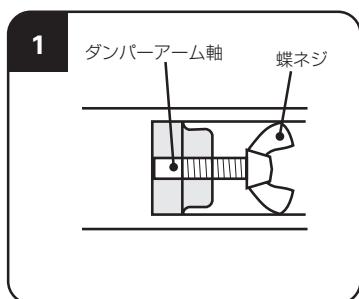
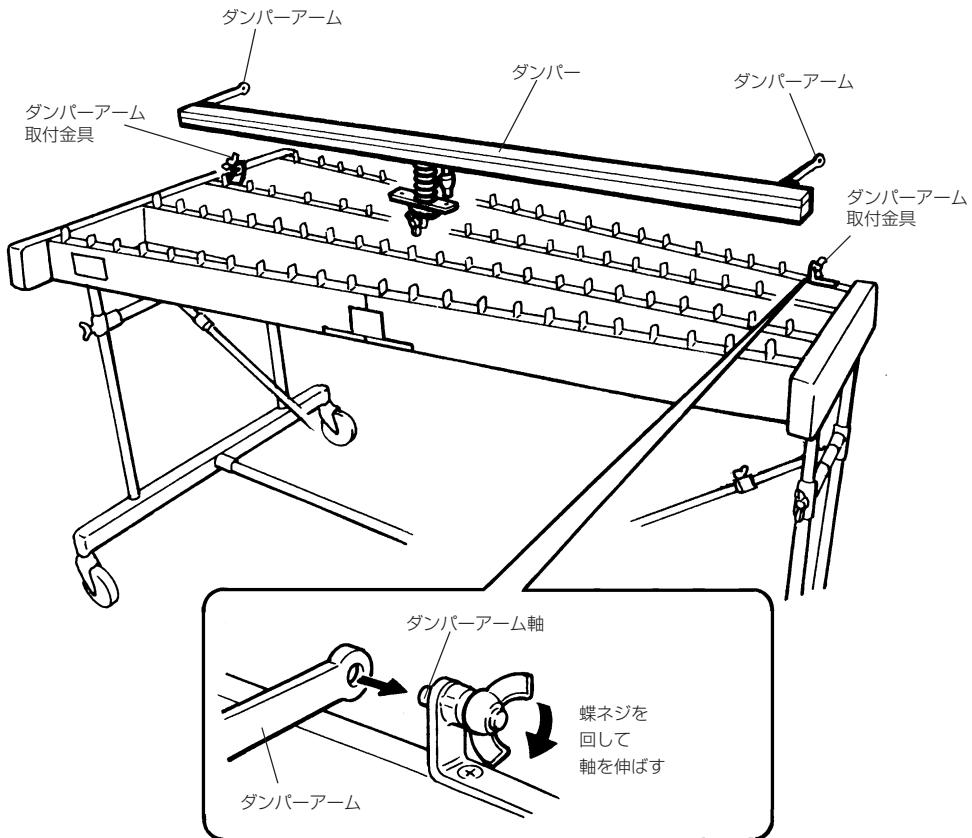
- 長枠(1)：銘板がある。銘板面が奏者側。
(2)：かすがい付、吊金が多い。かすがい面が奏者側。
(3)：かすがい付、吊金が少ない。かすがい面が聴衆側。
(4)：YAMAHAマークがある。マーク面が聴衆側。



※イラストはYV-3710Jです。

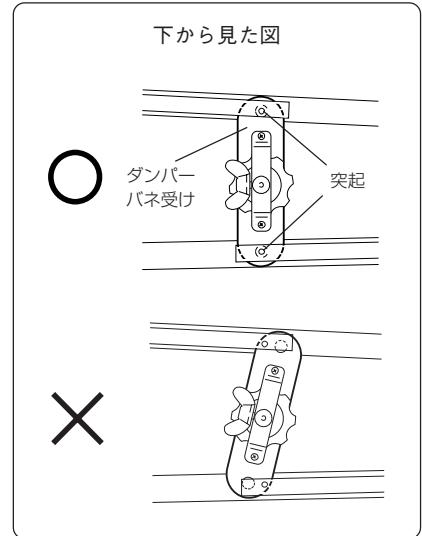
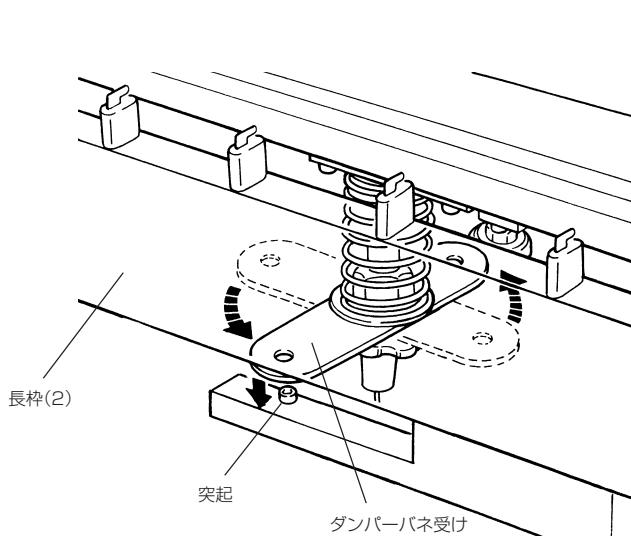
3 ダンパーを取り付けます。

- 3-1
- 1 ダンパーーム取付金具の蝶ネジをゆるめて、ダンパーーム軸を引っ込めます。
 - 2 ダンパーームの穴をダンパーーム軸位置に合わせます。
 - 3 ダンパーーム取付金具の蝶ネジを閉めて、ダンパーーム軸を伸ばします。

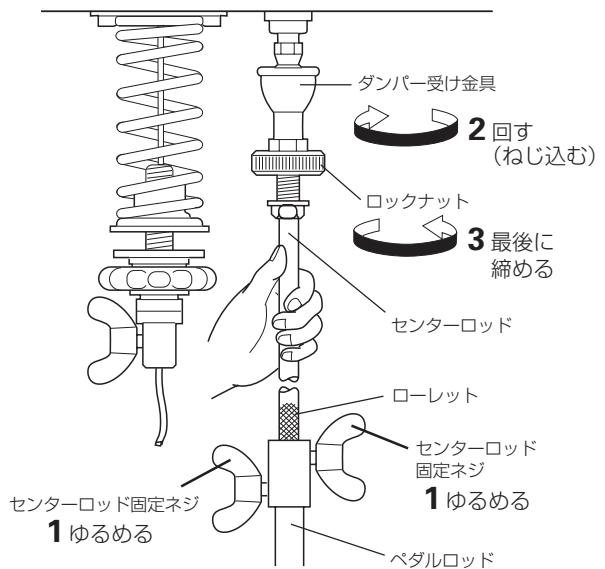


組立手順 : YV-3910J/3710J

3-2 ダンパー・バネ受けの両端の穴を、長枠(2)、(3)の下面にある金具の突起に合わせてはめ込みます。



- 3-3
- 1 センターロッド固定ネジをゆるめてセンターロッドをのばし、
 - 2 ダンパー受け金具へねじ込んで取り付けます。このとき、センターロッドを手で固定し、ダンパー受け金具を回してねじ込みます。
 - 3 止まるまでねじ込んだら、ロックナットを締めて固定します。



4 共鳴パイプを取り付けます。

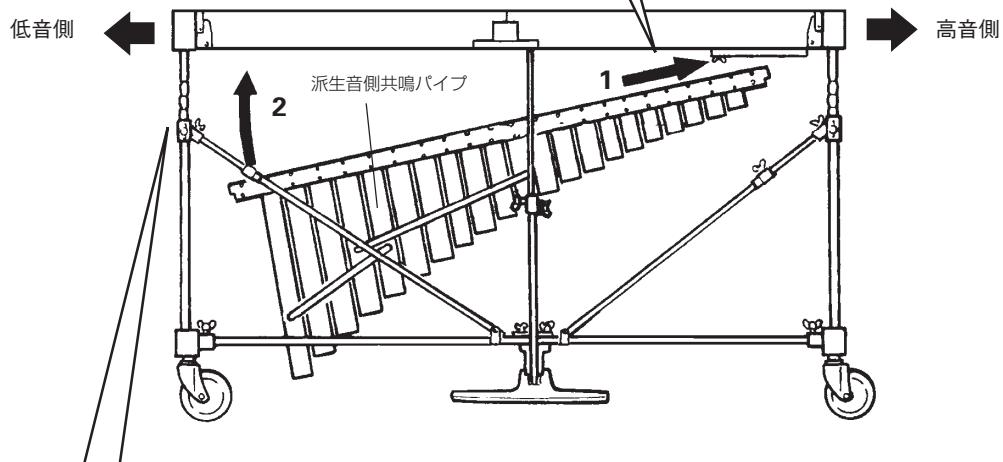
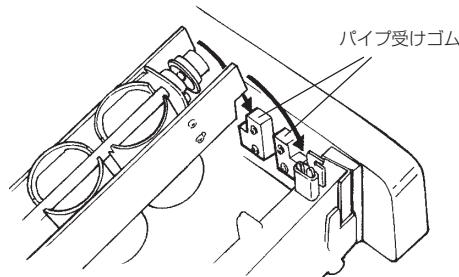
4-1 長枠の下側から共鳴パイプを差し込み、パイプ受けゴムの上にのせます。

先に高音側をのせた後、低音側をのせます。

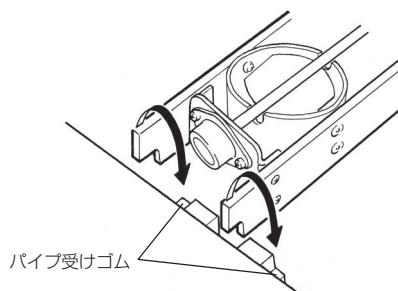
※ 鉛音側、派生音側を間違えずに取り付けてください。

※ 共鳴パイプを脚などに当てないよう、注意してください。

1 先に高音側をパイプ受けゴムにのせます。



2 低音側をはめる際には図のようすきまをくぐらせ、受けゴムの間にはめ込みます。



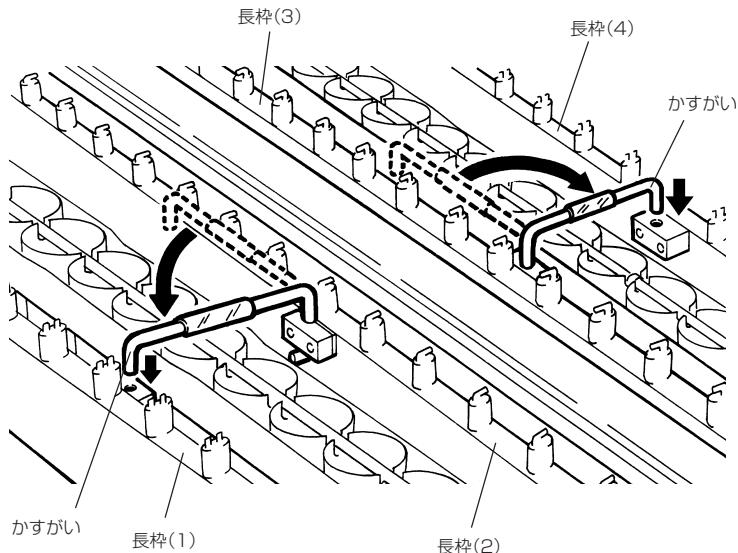
組立手順：YV-3910J/3710J

5 音板をセットします。

5-1 (3-3) の図参照

ローレットが隠れるくらいの位置までペダルを上げて、センターロッド固定ネジを締めてセンターロッドを固定します。

5-2 長枠(2)、(3)に付いているかすがいを長枠(1)、(4)にはめます。

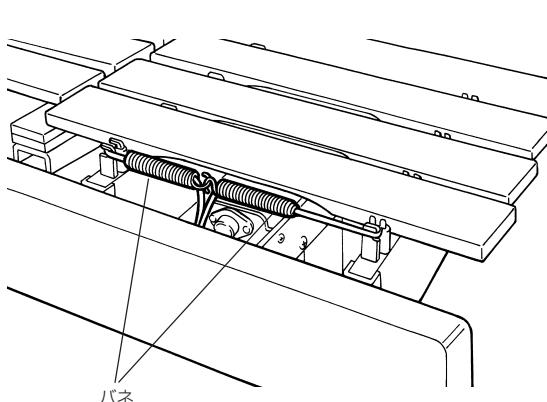


5-3 ペダルを踏んでダンパーを下げた状態で、音板を静かにのせます。

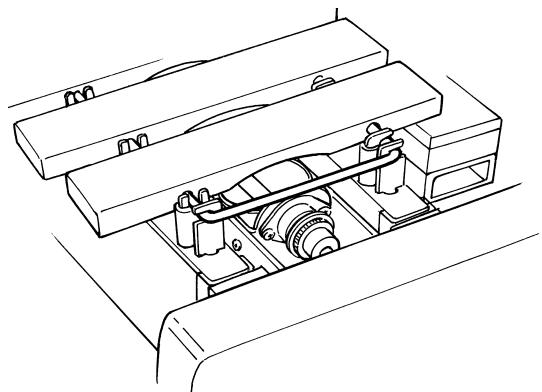
音板の位置をひとつずつ合わせ、ひもを吊金にかけていきます。

ひもがすべて吊金にかかっていることを確かめたら、低音側でバネどうしをかけて固定します。

低音側



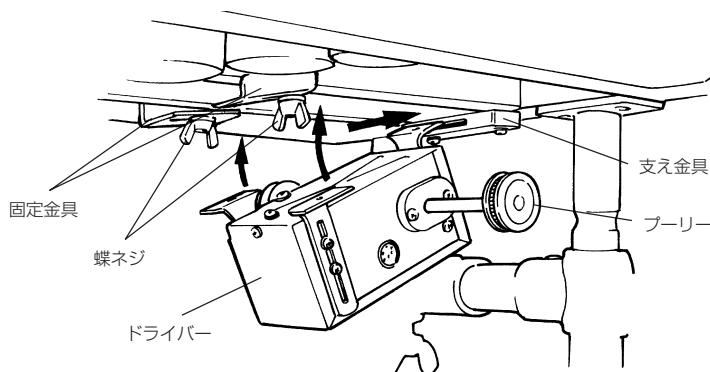
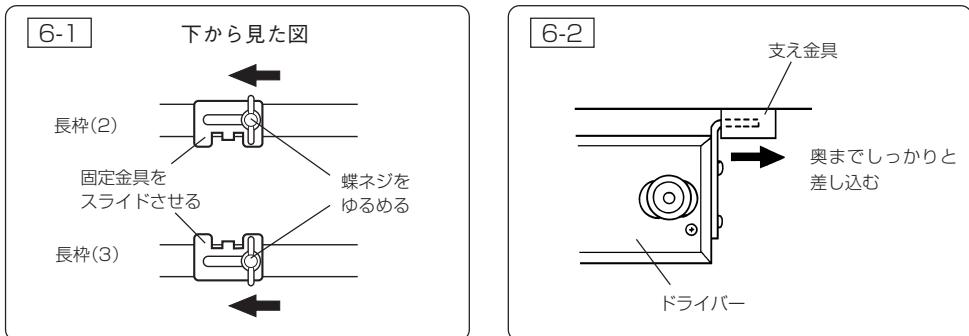
高音側



[6] ドライバーを取り付けます。

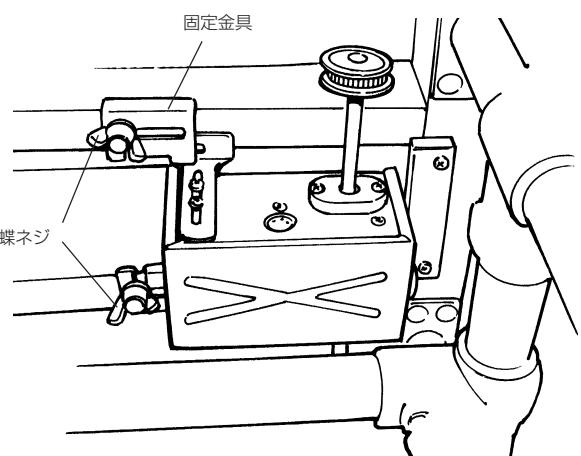
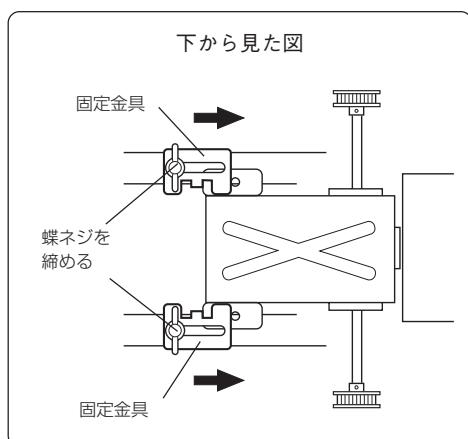
6-1 長枠(2)、(3)の下面高音側に付いている蝶ネジをゆるめ、固定金具を2つとも低音側にスライドさせます。

6-2 支え金具にドライバーを奥までしっかりと差し込みます。



6-3 手順 [6-1] でスライドさせた固定金具を2つとも高音側へスライドさせ、ドライバーの取付金具をしっかりとフックした状態で、蝶ネジを締め付けてドライバーを固定します。

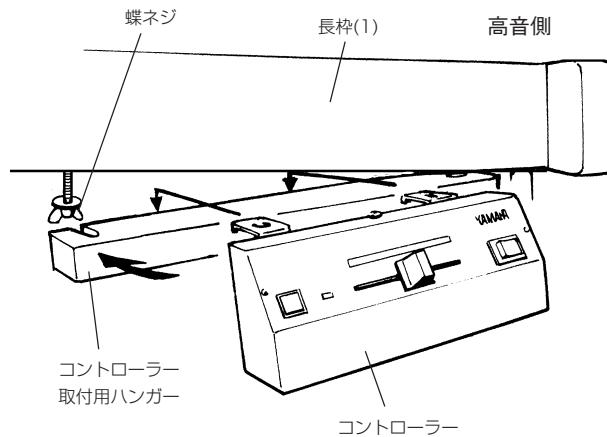
※ ドライバーの左右のブーリーがファン側ブーリーの真下に来るよう取り付けます。



組立手順：YV-3910J/3710J

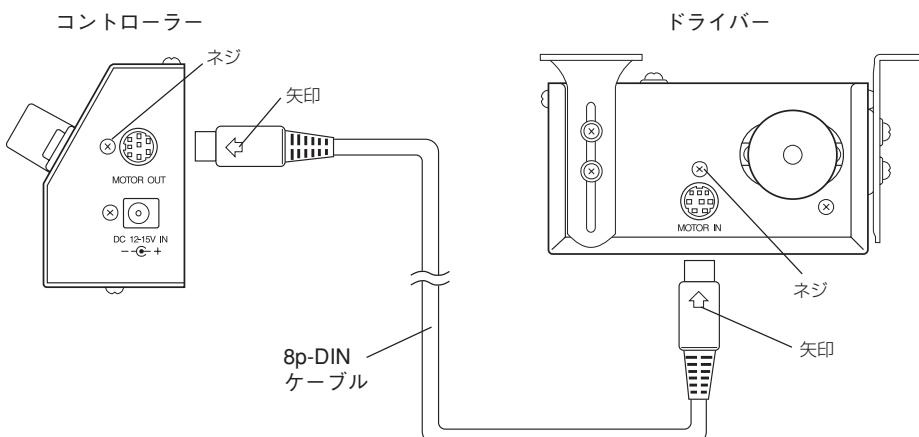
7 コントローラーを取り付けます。

- 7-1 長枠(1)の高音側下面の蝶ネジをゆるめ、コントローラー取付用ハンガーを手前に引き出します。ハンガーにコントローラーの取付金具を掛けたら、ハンガーを元の位置に戻し蝶ネジをしっかりと締めて固定します。



8 ドライバーとコントローラーとを接続します。

- 8-1 ドライバーのMOTOR IN端子とコントローラーのMOTOR OUT端子とを、付属の8p-DINケーブル*で接続します。ケーブルのプラグ部分の矢印(▷)が各端子のネジ側に向くようにして、接続します。



* 8p-DINケーブルを紛失された場合は、以下のNo.にてご注文ください。

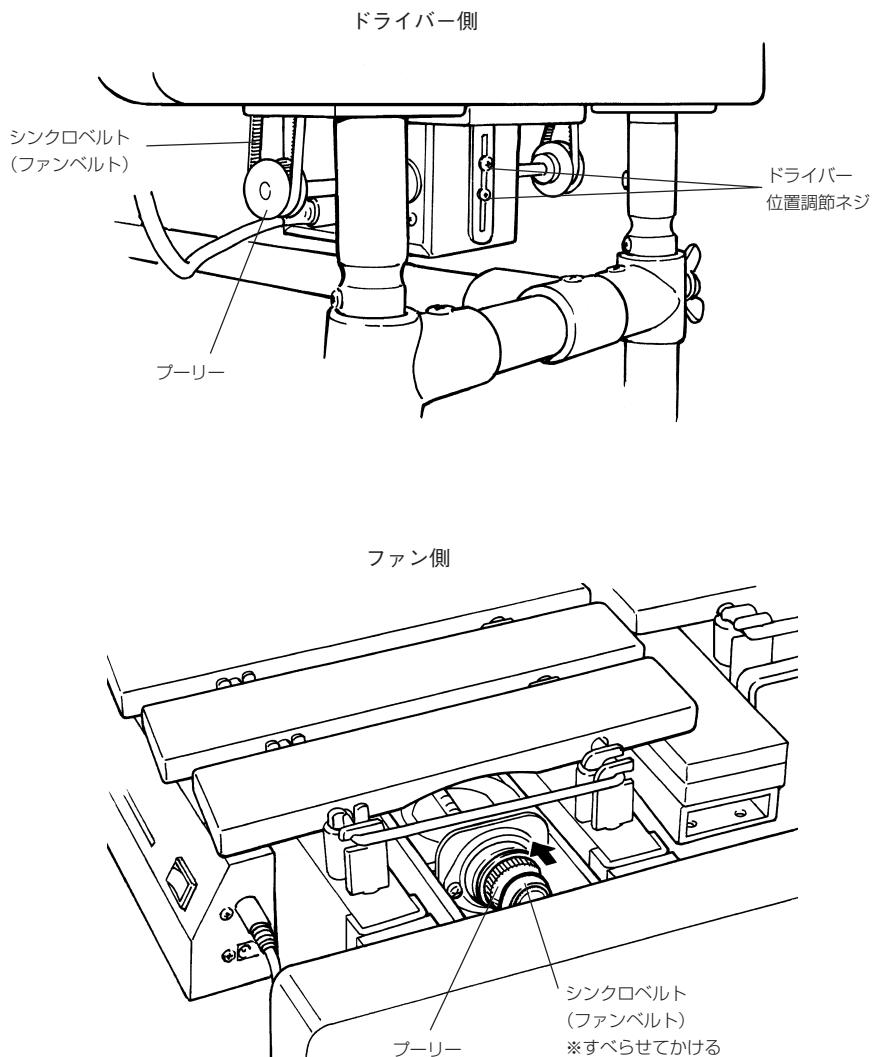
Part No.	部品名称	仕様
W5172200	8p-DINケーブル	L=220

9 シンクロベルト(ファンベルト)*をセットします。

9-1 まずドライバー側ブーリーにシンクロベルトをかけ、次にファン側のブーリーにすべらせてかけます。

※サービスを実施される方へ

ブーリーの間隔が広すぎてベルトがかけられない場合や、逆に間隔がせまくてベルトが空回りする場合は、ドライバー位置調節ネジ(下図)2本をゆるめてベルトの張り具合を調節してください。調節後は、しっかりとネジを締めておいてください。



※ シンクロベルトを紛失された場合は、以下のNo.にてご注文ください。

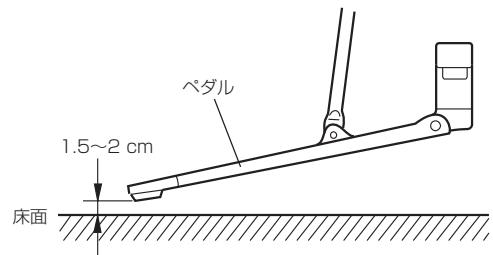
Part No.	部品名称	仕様
W5113730	シンクロベルト	180TN15-3.0

組立手順 : YV-3910J/3710J

10 調整

10-1 ペダル踏みしろの調整

センターロッド固定ネジをゆるめ、センターロッドの長さを調整してから再び固定ネジを締めて、ペダルの踏みしろを調整します。ペダルと床面の間は1.5～2cmが適当です。



10-2 ワイヤークリップの調整

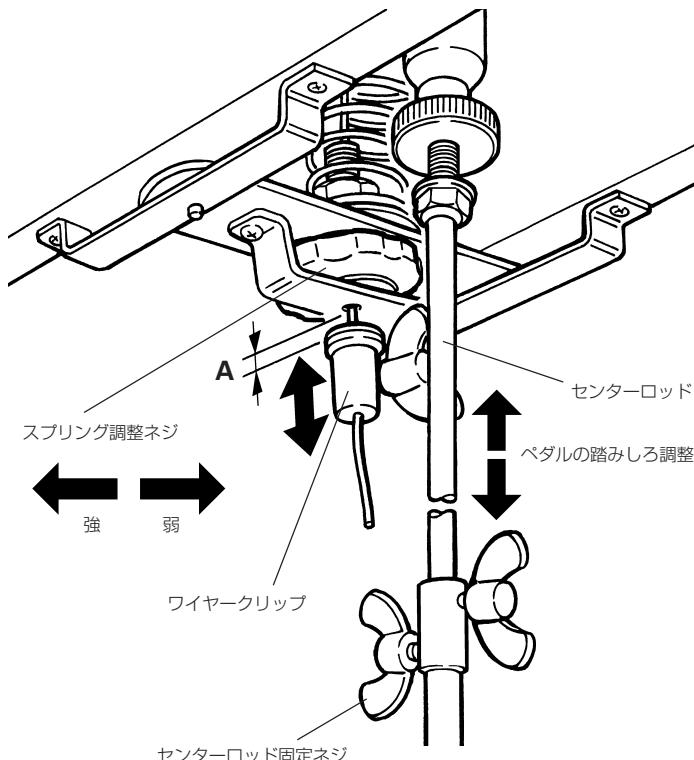
工場出荷時には、梱包の都合上ワイヤークリップは下がった位置にあります。通常の使用においては、ペダルから足を離した状態で、ワイヤークリップの蝶ネジをゆるめてワイヤークリップを上にずらし、図中の長さAが1～3mmになるようにワイヤークリップを固定してください。

また、ワイヤークリップの位置を変えることによって半ダンパー(ダンパーを少し効かせたままの状態にする)や常時オープン*などの設定をすることができます。

* ダンパー-ペダルを踏み込んでダンパーをオープンにしたまま、ワイヤークリップを上いっぱいにあげて固定すると、常時オープンとなります。

10-3 ダンパースプリングの調整

スプリング調整ネジを左へ回すほど、ダンパーの効き(ダンパーが音板を押す強さ)とペダルの踏み込み強さを強く設定することができます。



10-4 音板高さの調整



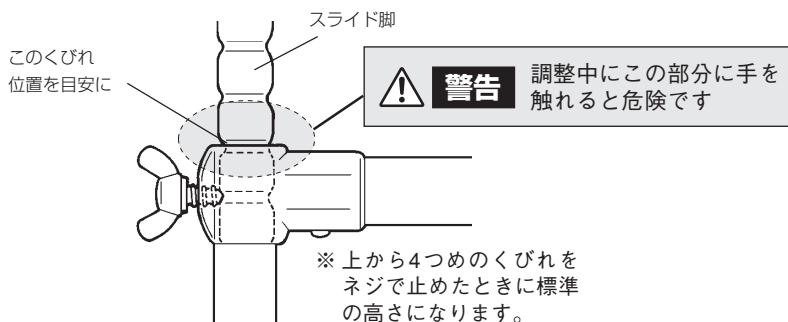
注意

この作業は必ず2人以上で行なってください。

組立手順を⑨→⑧→⑦→⑥→⑤→④と逆に進んで、シンクロベルト、ドライバー、コントローラー、音板、共鳴パイプをはずします。また、センターロッド固定ネジをゆるめておきます。

高音側、低音側ともに、側枠の下を手で支えながらスライド脚を固定している蝶ネジをゆるめます。

希望する高さに合わせて、スライド脚のくびれ部分を蝶ネジでしっかりと締め付けます。ひとつ上のくびれの位置を目安にして締め付け位置を調整してください。



すべて組み上げたら、各部のネジがしっかりと締まっていることを確認してください。



注意

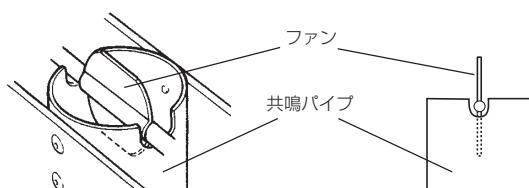
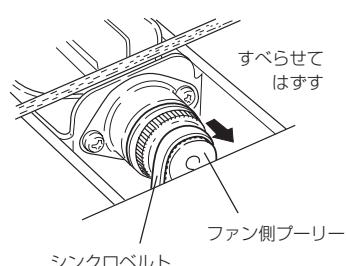
くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべて危険ですので、絶対におやめください。

■ ポーズメモリー機能の設定(YV-3910J/3710J)

YV-3910J/3710Jには、ファンをオフにした時(ビブラートをかけない時)に、常に同じ位置でファンを停止させる『ポーズメモリー機能』があります。

電源の準備ができたら、以下の手順でファンの停止位置をメモリーします。

- ① コントローラーの電源を入れます(ON)。
- ② スタート/ストップボタンを1回押してファンを回転させた後、もう一度スタート/ストップボタンを押してファンを停止させます。
- ③ シンクロベルトをファン側で右図のようにすべらせてはずし、ファンが共鳴パイプと垂直になる位置(共鳴効果が最も大きい位置)でベルトをかけ直します。
幹音側、派生音側ともに設定します。



※ ファンが共鳴パイプと垂直になる位置をメモリーします。

演奏を始める前に : YV-3910J/3710J/3000AJ

■ 電源の準備

ビブラフォンドライブユニットは、電源として家庭用コンセントと乾電池の両方を使うことができます。

● 家庭用コンセントから電源をとるときは

付属の電源アダプターを用意します。

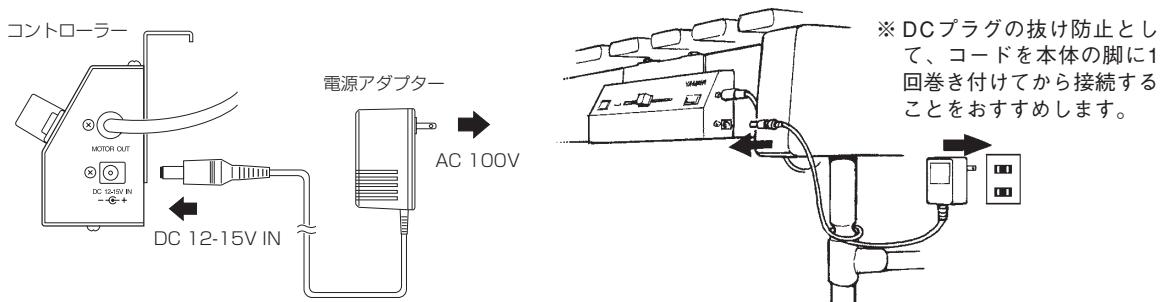


注意

必ず付属の電源アダプターをご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障の原因となります。このような場合の故障は、保証期間内でも保証いたしかねます。

- 1 電源アダプターのDCプラグをコントローラーの電源端子(DC 12-15V IN)へ差し込みます。

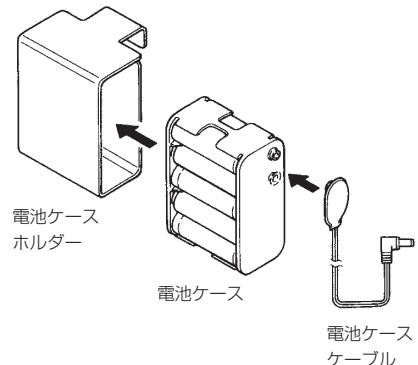
- 2 電源アダプターのACプラグを家庭用コンセント(AC100V)に差し込みます。



● 乾電池を使うときは

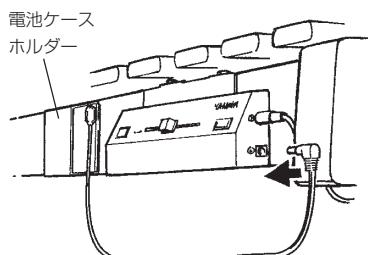
付属の電池ケース、電池ケースホルダー、電池ケースケーブルと市販の乾電池(単3乾電池)を10本用意します。

- 1 市販の乾電池(単3乾電池)を電池ケースに10本入れます。
電池ケース内側のイラストに合わせて向きを間違えないように入れてください。
- 2 電池ケースを電池ケースホルダーに挿入します。
- 3 電池ケースケーブルを電池ケースに接続します。
- 4 コントローラーの左隣に電池ケースホルダーをセットします。
- 5 電池ケースケーブルのDCプラグをコントローラーの電源端子(DC12-15V IN)へ差し込みます。



注意

- ※ 乾電池はお早めにお取りかえいただくことをおすすめします。電池が少なくなりますとファンの回転スピードが遅くなったりストップする場合があります。
- ※ 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。また、危険ですので異なった種類やメーカーの電池を混ぜて使用しないでください(たとえば、アルカリとマンガンなど)。
- ※ 誤った使い方は、乾電池の破裂や液漏れを引き起こしきがや汚損の原因となります。
- ※ 使用後の乾電池は火中に捨てないでください。一般のゴミとは分けて、定められた場所に捨てましょう。



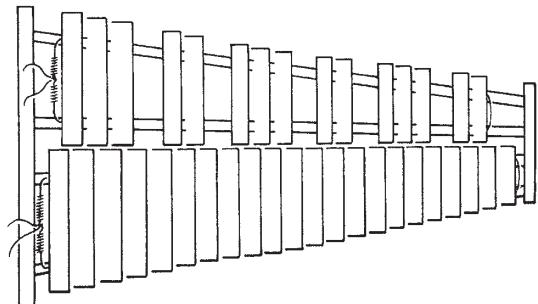
部品の確認：YV-3000AJ

YV-3000AJの梱包箱の中には、以下の部品が入っています。

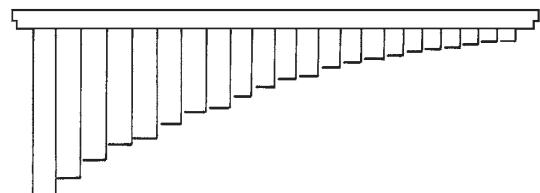
組み立ての前に、すべての部品がそろっていることを確認してください。

※部品が不足している場合は、お買い求めになったお店へご連絡ください。

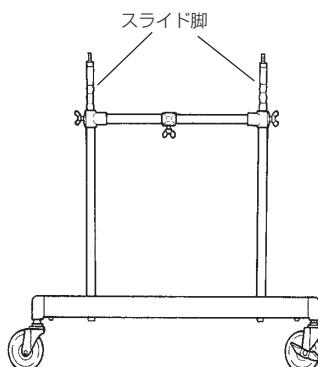
① ビブラフォン本体×1



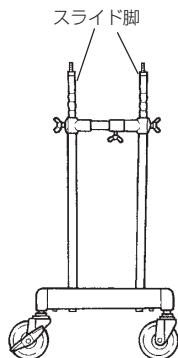
⑥ 共鳴パイプ(幹音側)×1



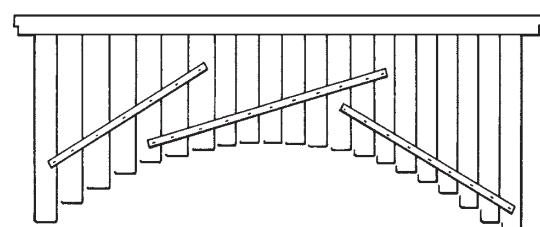
② 脚(大)×1



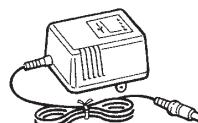
③ 脚(小)×1



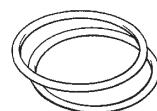
⑦ 共鳴パイプ(派生音側)×1



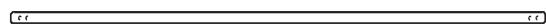
⑧ 電源アダプター×1



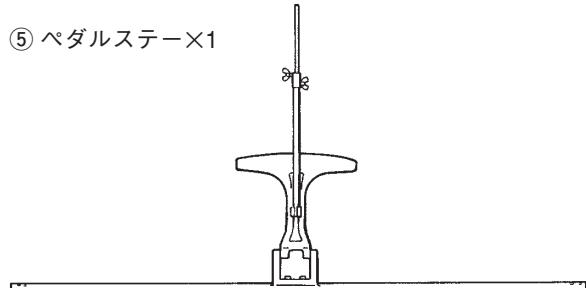
⑨ 丸ベルト
(ファンベルト)×2



④ 補強ステー×1

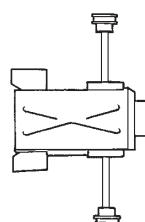


⑤ ペダルステー×1

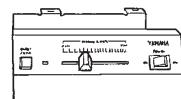


ビブラフォン・ドライブユニット：YVM-200

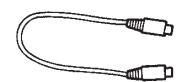
⑩ ドライバー×1



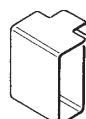
⑪ コントローラー×1



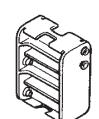
⑫ 8p-DINケーブル×1



⑬ 電池ケースホルダー
×1



⑭ 電池ケース
×1



⑮ 電池ケース
ケーブル
×1

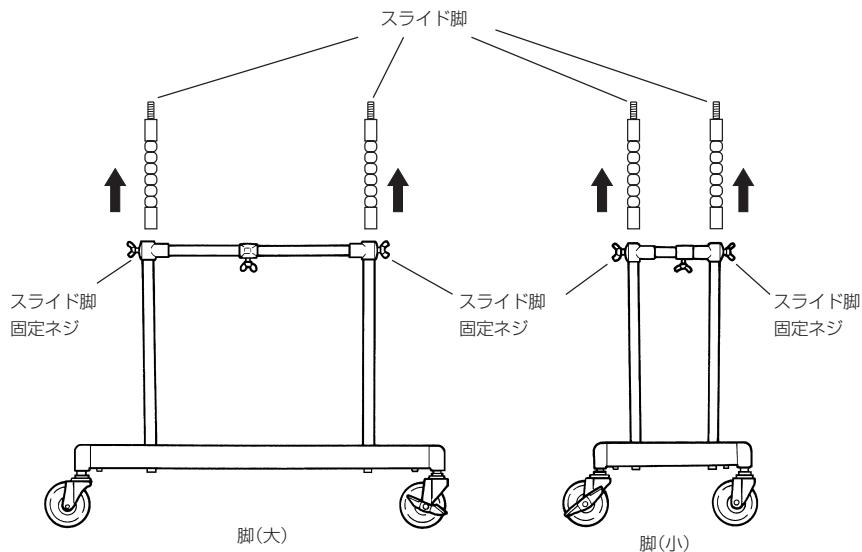


※ 電池は別売りです。

組立手順 : YV-3000AJ

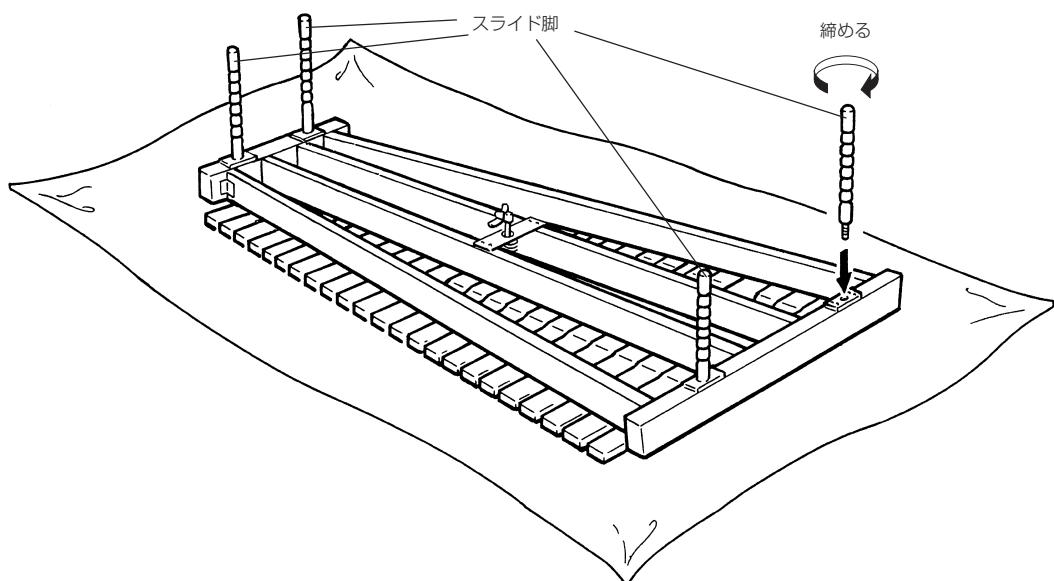
安全のために、組み立ては2人以上で、十分スペースのある場所で行ってください。
音板を傷つけないように、じゅうたんや柔らかい布などを敷いた平らな場所で作業してください。

- 1 脚(大)、脚(小)のスライド脚固定ネジをゆるめ、スライド脚4本を抜き取ります。

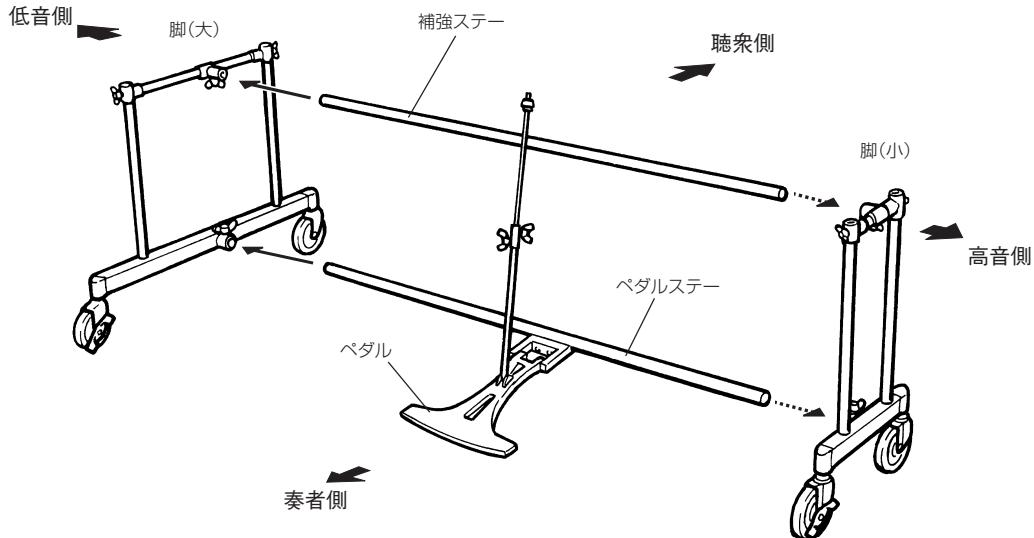


- 2 ピブラフォン本体を、底面を上にして床に置きます。

- 3 本体底面のネジ穴に、スライド脚をそれぞれねじ込んで取り付けます。(スライド脚は、4本とも共通です。)



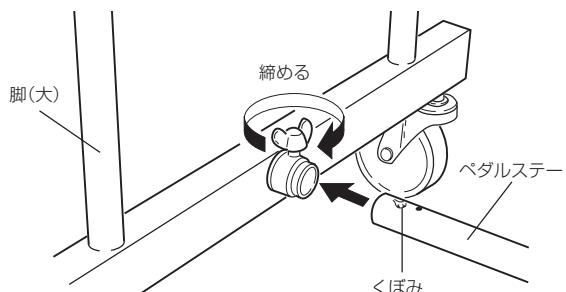
- 4 組み立てたときに下図の位置関係になるように、脚(大)、脚(小)、ペダルステー、補強ステーを配置します。



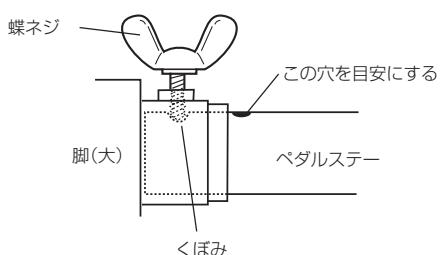
- 5 脚(大)と脚(小)を、ペダルステーと補強ステーでつなぎます。

脚(大)の連結用穴に、くぼみを上面にして、ペダルステーを止まるまで差し込み（この位置で蝶ネジの先端がステーのくぼみ部分にきます）、蝶ネジを締め付けて固定します。

※ くぼみの近くの穴を目安にしてステーを差し込んでください。



- 6 補強ステーはくぼみを下面にして、ペダルステーと同様に蝶ネジの先端とくぼみを合わせ、蝶ネジを締め付けて脚(大)に固定します。



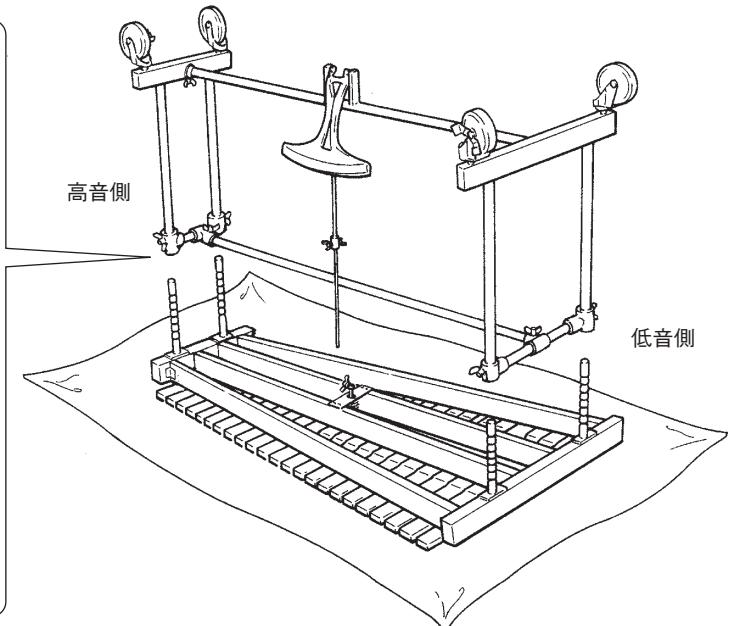
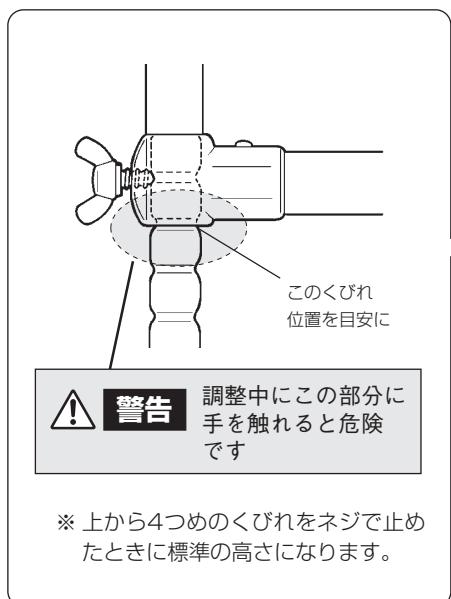
- 7 脚(小)側も同様にして、ペダルステー、補強ステーと接続します。

組立手順：YV-3000AJ

8 スライド脚と脚とを接続します。

脚の穴にスライド脚がそれぞれ入るように、真上から脚を差し込みます。

希望する高さに合わせて、スライド脚のくびれ部分を蝶ネジでしっかりと締め付けます。ひとつ上のくびれの位置を目安にして締め付け位置を調整してください。

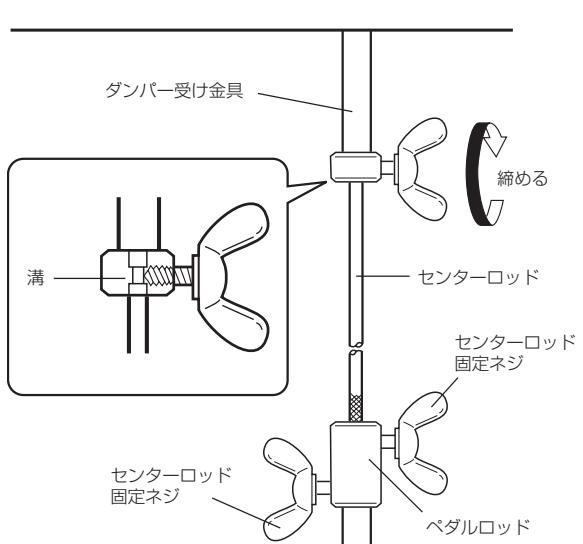


⚠ 注意 くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべて危険ですので、絶対におやめください。

9 脚を固定したら、センターロッド固定ネジをゆるめてセンターロッドをのばし、ダンパー受け金具へ差し込みます。蝶ネジの先端がセンターロッドの溝部分にはまるように、しっかりと締めて固定します。

10 ビブラフォン本体を起こし、共鳴パイプを取り付けます。(手順はYV-3910J/3710Jと同様です：13ページ④参照)

11 ドライバー、コントローラーを取り付け、付属の8p-DINケーブルで接続します。(手順はYV-3910J/3710Jと同様です：15, 16ページ⑥～⑧参照)

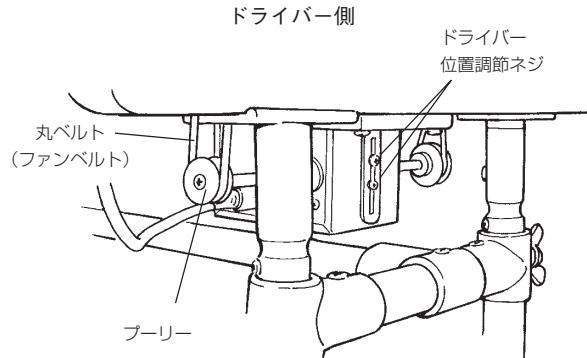
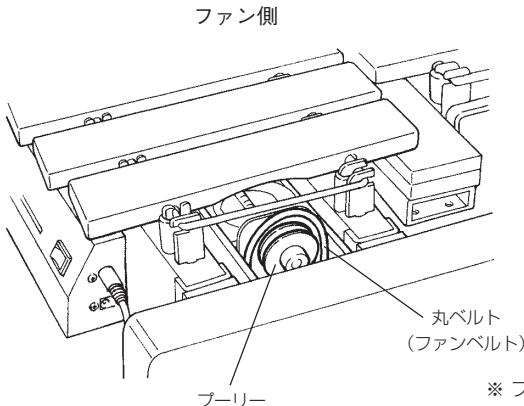


12 丸ベルト(ファンベルト)*を取り付けます。

まずファン側ブーリーに丸ベルト(ファンベルト)をかけ、次にドライバー側ブーリーにねじるようにしてかけます。

※サービスを実施される方へ

ブーリーの間隔が広すぎてベルトがかけられない場合や、逆に間隔がせまくてベルトが空回りする場合は、ドライバー位置調節ネジ(下図)2本をゆるめてベルトの張り具合を調節してください。調節後は、しっかりとネジを締めておいてください。



* ファンベルトを紛失された場合は、以下のNo.にてご注文ください。

モデル	Part No.	部品名称	仕様
YV-3000AJ	W5 128041	ファンベルト	3マルL275

13 ペダル踏みしろを調整します。(手順はYV-3910J/3710Jと同様です：18ページ 10-1 参照)

14 すべて組み上げたら、各部のネジがしっかりと締まっていることを確認してください。

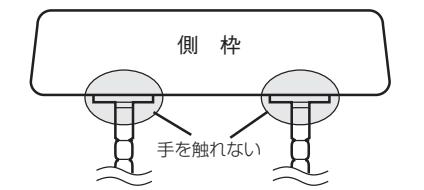
15 高さの調整は、必ず2人以上で行なってください。

必ず丸ベルト(ファンベルト)、ドライバー、コントローラー、音板*、共鳴パイプをはずし、センターロッド固定ネジをゆるめておきます。(*音板は、低音側のバネをはずし、ひもを吊金からはずしてとります。)

その状態で、高音側、低音側ともに、側枠の下を手で支えながら(金具部分には手を触れないこと)、スライド脚を固定している蝶ネジをゆるめます。

希望する高さに合わせて、スライド脚のくびれ部分を蝶ネジでしっかりと締め付けます。ひとつ上のくびれの位置を目安にして締め付け位置を調整してください。(前ページ8参照)

警告 必ず木枠を持って高さ調整してください。
金具部分には手を触れないでください。



注意 くびれ位置以外でネジを止めると、スライド脚がすべて危険ですので、絶対におやめください。

16 以上で本体の組立は完了です。

続いて、付属の電源アダプターをコントローラーの電源端子(DC 12-15V IN)に接続します。

(手順はYV-3910J/3710Jと同様です：20ページ『電源の準備』参照)

仕様 / 音域表

YV-3910J

- 音域：F28～F69 (3-1/2オクターブ)
- 基準ピッチ：A442 Hz
- 音板材：超高力アルミニウム合金24S (超ジュラルミン)
- 音板幅・厚さ：57～39 mm・13 mm
- 音板仕上げ：鏡面ゴールドアルマイト
- 共鳴パイプ：アルミニウム合金管・艶出しゴールドメタリック焼付塗装(中央分割式)
- 枠：ブナムク材・MICA サフーブラック塗装(分解組立式)
- 脚：スチールパイプ、黒色レザーサテン塗装(高さ調整式/分解・取り外し可能)
- ドライブユニット：YVM-300(ポーズメモリー機能、DCブラシレス)
- 定格回転数：25～145 RPM
- 電源アダプター：YAMAHA ACアダプター PA-3C (D.C. 12 V, 700 mA +-)
- 消費電力：4.7 W
- 寸法(間口×奥行×高さ)：164×79×86～94 cm
- 質量：61 kg
- キャスター：φ100 mmキャスター(ストッパー付)
- バッテリーユニット：単3電池×10本使用

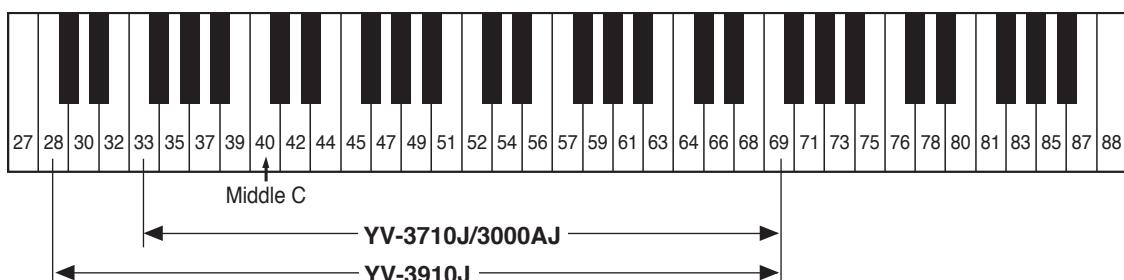
YV-3710J

- 音域：F33～F69 (3オクターブ)
- 基準ピッチ：A442 Hz
- 音板材：超高力アルミニウム合金24S (超ジュラルミン)
- 音板幅・厚さ：57～39 mm・13 mm
- 音板仕上げ：ヘアラインゴールドアルマイト
- 共鳴パイプ：アルミニウム合金管・艶出しゴールドメタリック焼付塗装(中央分割式)
- 枠：ブナムク材・MICA サフーブラック塗装(分解組立式)
- 脚：スチールパイプ、黒色レザーサテン塗装(高さ調整式/取り外し可能)
- ドライブユニット：YVM-300(ポーズメモリー機能、DCブラシレス)
- 定格回転数：25～145 RPM
- 電源アダプター：YAMAHA ACアダプター PA-3C (D.C. 12 V, 700 mA +-)
- 消費電力：4.7 W
- 寸法(間口×奥行×高さ)：143×82×86～94 cm
- 質量：58 kg
- キャスター：φ100 mmキャスター(ストッパー付)
- バッテリーユニット：単3電池×10本使用

YV-3000AJ

- 音域：F33～F69 (3オクターブ)
- 基準ピッチ：A442 Hz
- 音板材：超高力アルミニウム合金24S (超ジュラルミン)
- 音板幅・厚さ：57～39 mm・13 mm
- 音板仕上げ：ヘアラインシルバー・アルマイト
- 共鳴パイプ：アルミニウム合金管・艶出しシルバーメタリック焼付塗装
- 枠：ブナムク材・黒色生地塗装
- 脚：スチールパイプ、黒色レザーサテン塗装(高さ調整式/取り外し可能)
- ドライブユニット：YVM-200 (ポーズ機能、DCブラシレス)
- 定格回転数：25～145 RPM
- 電源アダプター：YAMAHA ACアダプター PA-3C (D.C. 12 V, 700 mA +-)
- 消費電力：4.7 W
- 寸法(間口×奥行×高さ)：143×82×81～89 cm
- 質量：55 kg
- キャスター：φ100 mmキャスター(ストッパー付)
- バッテリーユニット：単3電池×10本使用

●ピアノの鍵盤との比較



※仕様および外観は、予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。



ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1